

令和元年度第1回 県と市町村との総合教育懇談会（概要）

日時 令和元年5月28日（火）

13時15分から14時45分

場所 県立長野図書館3階 信州・学び創造ラボ

【知事あいさつ】

- ◆ 図書館は、本を読む・本を借りるためだけの場所ではない、ということを皆さんと共有したい。
- ◆ 「学びの県づくり」を進めていく上で、図書館のあり方は、学校のあり方と共に、極めて重要。県と市町村の図書館同士の連携ネットワークを広げることで、自治の基盤・学びの基盤として、図書館はクリエイティブな場であり、色々な人たちが集まり新しい価値を創造していく場であることを、長野県から発信していきたい。
- ◆ 地域の資源として、公共図書館だけでなく学校図書館もどう位置付けていくのか、併せて考えていくべき重要なテーマだと考えている。

<議題：地域における図書館の新しい役割について>

【長野市長】

- ◆ 県立長野図書館は、本を貸すところといった図書館のイメージと根本から違っている。地域の交流や情報発信の場として、なかなか面白い。
- ◆ 公共図書館と学校図書館の役割を変えていくことも大事。南部図書館を改築する予定があるが、今までのような図書館はいらない、という若者の声もある。県立長野図書館は、公共図書館として、大きな一石を投じたのではないかな。

【長和町長】

- ◆ 長和町では、子どもたちが集まる隣保館の図書室として運営している。話を聞いて、図書館の所管が教育委員会がいいのか、それより町の情報広報課でやった方がいいのではないかと感じた。
- ◆ 今までは、知ること・調べることがつらいことだった。知ることが楽しいと思える図書館は、とても素晴らしいと思う。
- ◆ 若いお母さんたちから、是非図書館を作って欲しい、という話がある。中学校の跡地利用を考えているが、図書館にするとしたら、ただ本を置くだけでなく、色々な情報が集まる・情報を発信する・人が集まるような場所にしたい。ただ、相当費用がかかることから、その場合には県からも支援をお願いしたい。

【平賀図書館長】

- ◆ 長野県では、広域連携の中に図書館が組み込まれている地域がある。広域連携が行われていない地域においては、これからのひとつの方向性として、本・人材・費用を含めた広域連携も大切。

【大町市長】

- ◆ 北アルプス圏域の広域連携において、一昨年から図書館の連携を行っている。お互いの検索システムを共有し、本の配送を共通でやっている。県の図書館とも連携したいが、課題があり難しい。
- ◆ 多様な個性や考え方を尊重し合うのが民主主義の原点。それを知の拠点である図書館から発信していくことが、図書館のもうひとつの大きな役割だと思う。
- ◆ アナログからデジタルに変わっても、扱う素材そのものは変わらないと思う。それをどのような形で提供していくかが、大きなテーマであり、新しい分野だと思う。
- ◆ 大町市の図書館は、学びを自ら実践し、皆に広げていく様々なサークルやグループ活動の拠点になっている。図書館を中心に人と人をつなぎ、市民活動・まちづくり活動に結び付いている。

【平賀図書館長】

- ◆ 最近アメリカでは、良い図書館はサービスをつくる、偉大な図書館はコミュニティをつくる、と言われ始めた。
- ◆ この考え方は、信州にとっては親しみやすい考え方。例えば、松本での公民館・図書館を中心にした社会教育活動は、図書館の広場論として問題提起されたことがある。図書館は屋根のある広場である、ということはとても大事なこと。

【松本市教育長】

- ◆ 3年ほど前に台湾の高雄市を訪問したが、高雄市はこれから文化を育てる都市になるということで、その核として図書館を建設していた。立派な図書館を建設していたが、図書館は文化を育てる機能があると思う。
- ◆ 文化をどのように育てるのか。情報を得るだけなら図書館が無くても得られる。文化を育てるには、コミュニティや人と人のつながりが必要になる。その中で、人生100年時代のいきがいを見つけたり、親子の愛着を育んだりしている。
- ◆ 県立長野図書館には、そのようなものを皆で育てていくフロントランナーとして、事例を市町村に示して欲しい。また、市町村の個性的な取組を支援し、つないでほしい。そして、長野県全体の図書館文化を創っていければ素晴らしいと思う。

【松川町教育長】

- ◆ 図書館が地域づくり・まちづくりにどのような役割がはたせるか、図書館職員と話をしている。松川町は公民館活動が盛んであり、そういった住民自治の精神を図書館運営と重ねられないか考えているが、地域課題が見えにくくなっていること、行政・NPOが支援をしていること、インターネットの普及で個人の学習環境が整っていることから、人々が学び合う場が作りにくくなっている。
- ◆ 地域課題の解決には、図書館だけでなく、行政の担当課との連携が必要。
- ◆ 人口減少社会においては若者への期待が大きい。いかに図書館の活動と若者を結び付けていくかが、非常に大きな課題ではないか。
- ◆ 松川町では、街の中の拠点が図書館であり、隣接して公民館・役場・学校がある。どれだけの人たちに平等に、図書館の情報に接することができる機会を提供できるかも大きな課題。

【平賀図書館長】

- ◆ 若者が図書館に来ないのはどこの図書館も同じ。子育て世代と引退世代の両極化している状態。自分事として、どう地域を創っていくか、コミュニティを創っていくかが大きな課題。そのために、県立長野図書館がコミュニティを創る起点となろうとしている。

【小諸市教育長】

- ◆ 図書館をつくるプロセスが、その後の図書館がどのようになるか大きく関わっていると思う。小諸市では、3年半くらい前に新しい図書館を建設した。これまでに80万人ほどの利用者があり、職員対応の満足度や建設する際のコンセプトが活きていると思う。
- ◆ 図書館建設のプロセスでは、住民と一緒につくろうということで、45回のワークショップに1,000人以上の住民が参加し、どのような図書館にするか詳細を詰めていった。現在、住民満足度が非常に高く、街の魅力の一つだと思っている。
- ◆ この図書館の良いところとして、図書館に勤めている職員が、もっと良い図書館にしたい、という共通目標を持っている。やはり人材の面は大きい。

【高山村教育長】

- ◆ 公民館全体を含めた図書館の計画があったが、現在一時中断している。本日は、新しい取組や多様な図書館のあり方を示していただき、大変参考になった。高山村は小さい村なので、村の規模と図書館のバランス・あり方について、住民と合意していく必要があると感じた。
- ◆ 図書館のコンセプトをしっかりと持つことで、図書館のかたちが決まってくるのではない

か。また、本だけでなく、人材が大切であると感じたが、どのようなバランスで図書館をつかっていくのか、とても難しい。

- ◆ 県立長野図書館の取組がすべての地域に合っているとも限らず、全部を市町村でやることはできない。県立長野図書館に先進的な取組を示していただき、それを市町村が取り入れたり研究していくことが大事。
- ◆ 一方で、図書館は本、という考えもある。じっくりと本を読むことも大事だと思う。

【平賀図書館長】

- ◆ 全国的な図書館の傾向として、規模の大小に係わらず、複合施設の核の施設として図書館を置く、というのが一般的になってきた。色々な可能性があり、必ずしも図書館でなければいけない、ということではないので、他の機能と一緒に考えていくことが大事。

【長野市教育長】

- ◆ 新しい学びの場、という大きな観点から、人が集って、新しいイノベーションを起こし古い文化も伝えていく、といった場をどうつくるのか。今回、長野市にラボのような施設をつくっていただいたのは大変ありがたい。年配の世代では、図書館は本を読むところ、という認識がある。若い世代は、古い意味での図書館はいらない、と言う。
- ◆ 人生を豊かに生きていく上で、新しい学びをどう育てていくか。色々なものが交じって、色々なことをやり、色々な価値観を持つ色々な人のつながりができていく場は大事。
- ◆ これからは、単独の専門施設を持つのはおそらく不可能となる。広い世代をつなぐ複合的な意味合いを持った図書館づくりをやっていきたいと考えるが、県と市の役割分担を考えながら、新しい図書館像をつくっていきたい。

【平賀図書館長】

- ◆ 公共図書館と学校図書館の連携も大事なテーマ。学校での探究的な学びに対して、公共図書館が手伝えることもたくさんあると思う。一昨年くらいから、学校の図書館に対する研修・サポートの試行も始めている。
- ◆ 学校図書館も含めて、市町村の図書館と一緒にできることがあると思うので、是非ご検討いただきたい。

【大町市長】

- ◆ 県立長野図書館と市町村図書館とのネットワークについて、どのような役割を果たそうとしているか。デジタル媒体も含め、蔵書検索サービスなどのネットワークをもっと活かしていくことはできないか。

【平賀図書館長】

- ◆ 現在、県内の公共図書館全 71 館と県内大学図書館の蔵書を横断的に検索できるシステムを県立長野図書館の HP から利用できる。どこの図書館にどの蔵書があるかはわかるが、蔵書そのものを配送する基盤については、3 広域でしかできていない。ここは工夫する余地がまだまだあると思う。

【松川村長】

- ◆ 本日議論された内容はその通りだと思う。ただ、資料中に図書館は本を貸す場所ではない、と書かれているが、図書館は本を貸す場所であっても良いのではないかと思う。

【原山教育長】

- ◆ デジタル化された書籍をどう扱うのか。図書館までなかなか来られない住民が、デジタルの書籍を借りることができれば、均てん化できるのではないか。デジタル情報を図書館がどう扱っていくのか、これからの課題ではないか。

【轟教育次長】

- ◆ 今後の方向性として、県と市町村の図書館協会などを活用して、本日の議論を発展させ、県と市町村の連携やこれからの新しい図書館のあり方について、引き続き議論を進めていきたい。

【阿部知事】

- ◆ 県として、学びと自治の県づくりを進めていく上で、図書館や公民館が極めて重要な役割を担っている。住民の主体的な活動が広がっていく中で、首長の皆さんにも、もっと図書館に関心を持ってもらいたい。そこが本日の議論の大きなポイントだと思っている。
- ◆ 連携や役割分担については、本質的な視点で考えた方が良い。市町村同士の横の連携や県と市町村との連携・役割分担を、機能面で考えていかなければならない。また、機能よりも場としてのあり方として、学校図書館と公共図書館がどう連携していくのかも考えていかなければならない。
- ◆ 教育委員会と首長部局、図書館と色々な分野をどのようにつなげていくか。図書館からのアプローチだけでなく、首長部局からももっと図書館にアプローチしていく必要がある。
- ◆ 一番大きなテーマは人材。県内広く学びと自治の県づくりを進める上で、分野ごとに縦割りになっている。人材の連携やつなぎ直しも必要であり、図書館人材や学びの人材をどう確保し、どう育てていくのか、これからの課題ではないか。